



国指定天然記念物

棕本の大ムク

芸濃町棕本の町並みから棕本のバス停前の細い路地を下るとムクの巨樹が現れる。高さ約18m、周囲約8m、樹齢は千五百年以上ともいわれ、昭和9年に国の天然記念物に指定されている。

棕本に古くから伝わる伝承によると「征夷大將軍坂上田村麿の家来、野添大膳父子が伊勢路を放浪し、この地に逃れたとき巨大なムクの木を見つけ、その下に草庵を造り住んだ」のが棕本の発祥と伝えられる。

明治3年9月には、暴風雨により北側の巨枝が折れ、時の神官がその枝をそのままにするのは忍びないと考え、獅子頭を彫刻して明治7年に棕本神社に奉納した。（棕本の獅子舞は3年に一度、丑、辰、未、戌の年の正月に実施される。）近年では、平成4年に地域の巨木を拠点に人々が集まる憩いの場としても整備された。また、平成10年9月の台風の影響で主幹に亀裂が生じたため、その亀裂の拡大と支枝の負担を和らげるために、東西の枝に支えを設置することとなった。古来より、この地域のシンボルとして厳しい自然にも耐え抜いたその姿と圧倒的な風格に威厳さえ感じるような古木である。

（「広報津」平成21年10月1日号）

